

2007年11月26日

23:31

東部弥生文化の特徴

- 緩やかな人口と社会の変化

* 自然微傾斜利用の灌漑型小区画水田の定着。しかし、その比重はそれほど高くなかった。

東北地方の気候は、水田稲作の展開には不利。

→稲作への依存を高めることのリスクが大きい。狩猟・採集・漁撈も以前重要。

* 物質文化…縄文文化と西部弥生文化の系譜を引くものが混在。

* 集落は増加は緩やか。緩やかに増減する。地域社会の形成は不明確。

→社会の複雑化は進まない。

続縄文文化の特徴

- 水田稲作が定着しない。

* 生業の中心は漁撈・狩猟・採集。

東北北部の中期弥生文化と道南の前期続縄文文化は、物質文化的には非常によく似ている。

・ 恵山式土器：東北北部の中期弥生文化時と関係。

・ 熊型製品：東北北部～道南に分布。

* 道南の前期続縄文文化では漁撈具が非常に発達。類似した漁業具が九州や関東でも見られる。

南方の貝を用いた貝製品。琥珀玉や貝玉。

→漁撈民の活動範囲の広さを物語る。

- 前期中頃から道央の後北式土器が広がり始める。

続縄文時代後期に北海道全体に後北式土器が展開。弥生時代末～古墳時代前期と同じ頃。

後北式土器は東北中部～北陸に浸透してくる。

西部弥生文化の社会的まとまりの形成と関連？ただし、その背景はよくわかっていない。

貝塚文化後期の特徴

- やはり水田稲作は定着しない。

生業の中心は珊瑚礁を利用した漁撈。そこに狩猟と採集が組み合わさる。

今のところ農耕が行われていた証拠はない。

中期の北部九州で盛行する貝製腕輪の原材料。道内で途中まで加工したものが流通

する。

中国との関係を示す遺物の存在。

→やはり漁撈民の広範囲な活動を物語る。